

令和元年6月12日

千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示している。

なお、「並」とは平年値を中心に40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イネ	いもち病 (葉いもち)	やや多	6月上旬発生量：並[発生なし] 気象予報：降水量並 日照時間並か少 (+)	・ P4「これから注意を要する病害虫」を参照。
	紋枯病	並	6月上旬発生量：並[発生なし] 気象予報：降水量並	・ 粒剤による薬剤防除は出穂20日前ごろに行う。 ・ 出穂15日前ごろの発病株率が15%以上の場合、粉剤、水和剤で穂ばらみ後期までに薬剤防除する。
	イネドロオイムシ	少	6月上旬発生量：少(-) 気象予報：降水量並	・ 幼虫による加害が多い場合は薬剤防除する。
	スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)	多	6月上旬発生量：やや多(+) 6月上旬被害株率：多(+)	・ 成貝及び卵塊を捕殺する。 ・ 令和元年度病害虫発生予察注意報第1号も参考にする。
	イネクロカメムシ	やや多	5月予察灯誘殺数：やや多(+) 6月上旬発生量：やや多(+) 気象予報：気温並	・ 成虫飛来期であり、発生が多い場合には薬剤防除する。
	ヒメトビウンカ	並	5月予察灯誘殺数：並 6月上旬発生量：並 気象予報：気温並	・ 縞葉枯病を媒介する。 ・ 成虫飛来期であり、発生が多い場合には薬剤防除する。
	セジロウンカ	並	5月予察灯誘殺数：並 6月上旬発生量：並 気象予報：気温並	・ 7月上中旬ごろに株当たり10頭以上寄生していた場合は、薬剤防除する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
スイカ	うどんこ病	やや多	6月上旬発生量：やや多（+） 気象予報：気温並 降水量並 日照時間並か少 （+）	<ul style="list-style-type: none"> トンネルの換気を十分に行い、通風を良くする。 病勢が進展してからの防除は困難であるため、発病ごく初期から薬剤防除する。 薬剤防除の際は、収穫前使用日数に注意し、葉裏にも十分かかるよう丁寧に行う。
	アブラムシ類	やや多	6月上旬発生量：やや多（+） 気象予報：気温並 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤散布は、葉裏にも十分かかるよう、丁寧にやる。 ほ場により発生状況が大きく異なるので、収穫まで日数のあるほ場では、こまめな観察と早期防除に努める。
	ハダニ類	並	6月上旬発生量：並 気象予報：気温並 降水量並	
サトイモ	アブラムシ類	やや少	6月上旬発生量：やや少（-） 気象予報：気温並 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤散布は、葉裏にも十分かかるよう、丁寧にやる。
	ハダニ類	並	6月上旬発生量：並 気象予報：気温並 降水量並	
ナシ	黒星病	並	5月下旬発生量：やや少（-） 気象予報：降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 被害葉、被害果は伝染源となるので、ほ場外に持ち出し適切に処分する。 加害が見られる場合は、薬剤防除する。
	シンクイムシ類	並	5月フェロモントラップ誘殺数：並 気象予報：気温並 降水量並	
	ハマキムシ類	並	5月下旬発生量：並 5月フェロモントラップ誘殺数：並 気象予報：気温並 降水量並	
	アブラムシ類	並	5月下旬発生量：並 気象予報：気温並 降水量並	

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
温州ミカン	そうか病	並	5月下旬発生量：並 気象予報：気温並 降水量並	・ 発生が多い園では、梅雨期にも薬剤防除する。
	ミカンハダニ	やや多	5月下旬発生量：やや多（+） 気象予報：気温並 降水量並	・ 夏期（6～8月）防除の判断は、寄生葉率30%を目安とする。
ビワ	灰斑病	並	5月下旬発生量：並 気象予報：気温並 降水量並	・ 落葉に付着した病原菌が次の発生源となるので、集めて園外に持ち出し、適切に処分する。 ・ ビワ樹と防風垣の剪定を行って通風・透光を良くする。
	カミキリムシ類	並	5月下旬発生量：並	・ クワカミキリ成虫は7～8月に多く発生するので、園内を見回り捕殺する。また、枝に咬み傷を付けて産卵するので、木づち等で樹皮の上から叩いてつぶす。 ・ 今期の収穫終了後、食入した幼虫が虫糞を押し出している孔を見つけたら、園芸用キンチョールE又はロビンフードで薬剤が食入部から逆流するまで噴射して防除する。
果樹共通	カメムシ類	並	5月下旬発生量：並 5月予察灯誘殺数：並 5月フェロモントラップ誘殺数：並 気象予報：気温並	・ 防虫ネット（9mm クロスまたは4mm 以下の網目）など物理的な防除対策を講じる。 ・ 加害が見られる場合は、収穫前使用日数に注意して薬剤防除する。 ・ カメムシ類の発生量は、地域間差が大きいいため、果樹園への飛来状況は地域や園地により大きく異なる。そのため、園内外をこまめに見回り、発生を認めたら飛来が多い夕方か活動の鈍い早朝に薬剤防除する。

Ⅱ これから注意を要する病害虫

イネいもち病（葉いもち・穂いもち）

6月上旬の巡回調査では、葉いもちの発生量は平年並（発生なし）だった。6月6日発表の関東甲信地方1か月予報では、降水量は平年並、日照時間は平年並か少ないことが予想されており、今後1か月間はイネいもち病の発生しやすい気象条件になる可能性があるため、十分に注意する。

千葉県の常発地での葉いもちの初発時期は、例年6月中旬～下旬である。葉いもち、穂いもちともに発生初期ほど農薬による防除効果が高いため、ほ場をよく観察し、適期防除に努める。

<症状>

葉いもちの病斑には、暗緑色あるいはネズミ色の病斑で、孢子形成数が多い進展型（写真1）と、褐色紡錘形で中央部が灰白色になった病斑で、孢子形成数が少ない停滞型（写真2）がある。分けつ期に進展型の病斑が多いと、株全体が萎縮する「ずりこみ症状」となって収量が激減する場合もある。

穂いもちは、止葉などの上位葉に発生した葉いもちが主な伝染源となり、穂首、枝梗、もみ等に発生する。発生すると白穂や不稔になるなど、収量・品質への影響が大きい。



写真1 進展型病斑



写真2 停滞型病斑

<感染条件>

イネいもち病の感染に好適な条件は、気温20～25℃で、降雨あるいは露によって長時間の湿潤状態が続いた場合である。このため、低温・多雨・日照不足が続く冷夏の年は多発生となりやすい。感染部位により異なるが、感染してから5～10日間程度の潜伏期間を経て発病する。窒素過多等によりイネが軟弱徒長している場合はイネいもち病の発生が助長されるため、葉色が平年より濃い場合も注意が必要である。

<防除法>

- 1 窒素肥料の過多、冷水の流入を避ける。
- 2 ほ場においた補植用取り置き苗は、発生源となりやすいので、早めに処分する。
- 3 葉いもち予防のための薬剤は、各薬剤の使用法に従い、予想される初発時期（常発地では6月中～下旬ごろ）までに散布する。粒剤の散布時は3～5cmの湛水状態とする。
- 4 出穂前、上位葉に葉いもちの進展型病斑がみられるほ場では、穂いもちへの移行を防ぐため、穂ばらみ期と穂ぞろい期に茎葉散布剤を使用する。
- 5 穂いもちの多発時には傾穂期にも追加散布を行う。

表 イネいもち病の主な防除薬剤

薬剤名()内はFRACコードを示す。

薬剤名 希釈倍液		使用基準 (注1) (注2)	使用量/10a (注3)	作用性	参考事項
オリゼメート (P2)	粒剤	(14/2)	3～4 kg	予防	葉いもちに対しては初発 10 日前～初発時に、穂いもちに対しては出穂 3～4 週間前に散布する。 穂いもちに対する防除は白葉枯病、もみ枯細菌病、ごま葉枯病菌による穂枯れにも効果がある。
クタジン P(6)	粒剤	(右記/2)	3～5 kg		葉いもちに対しては初発 7 日前～初発時に、穂いもちに対しては出穂 7～20 日前に散布する。
ゴウケツ(16.3)	粒剤	(30/1)	3～4 kg		使用時期は出穂 5 日前まで、但し収穫 30 日前までに湛水散布する。
コラトップ (16.1)	粒剤 5 ジャンボ P 豆つぶ	(右記/2) (右記/2) (右記/2)	3～4 kg 10～13 個 (500～650g) 250～375g		葉いもちに対しては初発 10 日前(コラトップジャンボ剤は 20 日前)～初発時に、穂いもちに対しては出穂 30 日前～5 日前までに散布する。 穂いもちに対するコラトップ粒剤 5 の 4 kg/10a の散布はもみ枯細菌病にも効果がある。
ブイゲット(P3)	粒剤	(45/2)	3 kg		葉いもちの初発 20～7 日前に湛水散布する。 ごま葉枯病菌による穂枯れ、白葉枯病にも効果がある。
フジワン (6)	粒剤 粉剤 DL (注4) 乳剤 1,000 倍液	(30/2) (14/2) (14/2)	3～5 kg 3～4 kg 60～150ℓ		粒剤は葉いもちに対しては初発 7～10 日前に、穂いもちに対しては出穂 10～30 日前に湛水散布する。
ラブサイド(16.1)	粉剤 DL (注4)	(7/3)	3～4 kg		
ルーチン (P3)	粒剤	(30/2)	1 kg		葉いもちの初発 3 日前までに湛水散布する。 ごま葉枯病菌による穂枯れ、白葉枯病にも効果がある。
ダブルカット (16.1+24)	フロアブル 1,000 倍液	(穂揃期/2)	60～200ℓ		予防・治療
ノンプラス (U14+16.1)	粉剤 DL (注4) フロアブル 1,000 倍液	(7/2) (7/2)	3～4 kg 60～150ℓ	ごま葉枯病、穂枯れ(ごま葉枯病菌)、変色米(カーブラリア菌)のほか、フロアブルはエピコッカム菌、アルタナリア菌による変色米にも有効である。	
ブラシン (U14+16.1)	粉剤 DL (注4) フロアブル 1,000 倍液	(7/2) (7/2)	3～4 kg 60～150ℓ	ごま葉枯病、穂枯れ(ごま葉枯病菌)、変色米(カーブラリア菌、エピコッカム菌)のほか、フロアブルはアルタナリア菌による変色米にも有効である。	
トライ(U16)	フロアブル 1,000 倍液	(14/2)	60～150ℓ		
カスミン (24)	液剤 1,000 倍液	(穂揃期/2)		治療	

※ いずれの剤も施用後の止水期間は 1 週間程度とする。

注 1) 表中の次の薬剤は同一成分を含むため、総使用回数に注意する。「ラブサイドとブラシン(成分:フサライド)」「ダブルカットとカスミン(成分:カスガマイシン)」「ダブルカットとノンプラス(成分:トリシクラゾール)」「ノンプラスとブラシン(成分:フェリムゾン)」

注 2) 使用基準(A/B)の表記は、Aは使用時期(収穫前使用日数等)を、Bは当該製剤を使用できる回数)を示している。

注 3) 水和剤、乳剤、液剤の 10 a 当たり使用量の目安は下記のとおりである。

・発育初期 60～80ℓ ・本田初～中期 100～120ℓ ・穂ばらみ期 120～150ℓ ・出穂期 120～150ℓ

注 4) 粉剤 DL を散布する場合、散布機の開度を 1 目盛り程度絞って散布する。また、散布しすぎないように注意する(普通の粉剤よりも粒径が大きいいため、粉じんの濃度が薄く見える)。

参考資料

○ 主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稲・サツマイモ・サトイモ・スイカ：6月上旬，果樹：5月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ (県内全域)	いもち病	葉いもち発病度	0.00	0.00	0.00	
	ばか苗病	発病株率(%)	0.17	0.03	0.17	
	紋枯病	発病度	0.00	0.00	0.00	
	イネヒメハモグリバエ	被害度	0.21	0.25	0.05	
	イネミズゾウムシ	被害度	6.30	7.78	7.55	
	イネゾウムシ	被害度	1.17	1.74	0.70	
	イネドロオイムシ	被害度	1.17	4.76	1.88	
	スクミリンゴガイ	被害株率(%)	1.76	0.38	1.70	
		貝密度 (/m ²)	0.23	0.14	0.13	
	セジロウンカ	25株当たり寄生成幼虫数	0.00	0.00	0.00	
	イネクロカメムシ	25株当たり寄生成幼虫数	0.30	0.11	0.04	
	フタオビコヤガ	25株当たり寄生成幼虫数	0.00	0.01	0.01	
	セジロウンカ	20回振りすくい取り成幼虫数	0.00	0.02	0.00	
	ヒメトビウンカ	20回振りすくい取り成幼虫数	0.49	0.40	0.40	
	ツマグロヨコバイ	20回振りすくい取り成幼虫数	0.00	0.01	0.03	
	コバネイナゴ	20回振りすくい取り成幼虫数	0.00	0.04	0.00	
サツマイモ (印旛，香取)	立枯病	発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	イモキバガ	被害葉率(%)	0.00	0.31	1.40	
スイカ (山武，印旛)	うどんこ病	発病葉率(%)	0.80	0.48	0.60	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	5.40	3.62	3.00	
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率(%)	6.00	4.36	2.00	
サトイモ (印旛，香取，君津)	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	26.60	37.67	41.60	
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率(%)	12.50	8.26	20.00	
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率(%)	0.53	1.33	0.55	
	赤星病	発病葉率(%)	0.11	0.23	0.18	
	シンクイムシ類	被害果率(%)	0.00	0.00	0.00	
	ハマキムシ類	被害葉率(%)	0.00	0.07	0.08	
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率(%)	0.00	0.09	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率(%)	6.24	8.01	8.58	
	カメムシ類	被害果率(%)	0.00	0.02	0.08	
温州ミカン (安房)	そうか病	発病度	0.10	0.11	0.08	
	かいよう病	発病度	0.00	0.00	0.00	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.02	0.00	
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率(%)	16.40	6.12	0.40	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率(%)	1.20	1.87	1.80	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率(%)	0.40	0.31	0.80	
	カメムシ類	叩き落とし虫数	0.20	3.36	0.00	
ビワ (安房)	灰斑病	発病葉率(%)	2.50	1.50	0.50	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.28	0.00	
	カミキリムシ類	被害穴数	0.50	0.85	0.25	

トラップ月間誘殺数（5月）

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数（頭）			備 考	
			本年値	平年値	前年値		
水稲予察灯	イネミズゾウムシ	千葉, 香取, 安房	18.3	30.3	76.5		
	セジロウンカ	〃	0.0	0.0	0.0		
	トビイロウンカ	〃	0.0	0.0	0.0		
	フタオビコヤガ	〃	0.0	0.2	0.0		
	イネヨトウ	〃	9.7	3.9	6.8		
	ニカメイガ	〃	0.3	1.0	6.8		
	イネクロカメムシ	〃	24.7	17.4	44.5		
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	〃	1.3	0.9	0.0		
	アカスジカスミカメ	〃	17.3	7.1	8.8		
(果樹カメムシ類)	チャバネアオカメムシ	〃	5.7	2.6	1.7		
	クサギカメムシ	〃	0.0	0.1	0.8		
	ツヤアオカメムシ	〃	0.0	0.4	1.8		
(コガネムシ類)	アカビロウドコガネ	〃	0.0	4.5	0.0		
	オオビロウドコガネ	〃	8.0	13.1	7.3		
	ドウガネブイブイ	〃	0.3	0.0	0.3		
	オオクロコガネ	〃	0.3	0.8	1.5		
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	0.0	1.7	1.0		
	クサギカメムシ	〃	1.0	1.4	1.0		
	ツヤアオカメムシ	〃	7.0	12.2	15.0		
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛, 香取	4.4	16.2	11.3		
	ヒメコガネ	印旛, 香取	5.8	1.1	0.0		
	コナガ	海匠	152.3	174.0	212.3		
	ハスモンヨトウ	県内全域	45.1	49.4	56.9		
	シロイチモジヨトウ	県内全域	2.9	3.7	12.1		
	オオタバコガ	県内全域	36.7	26.1	13.0		
	タバコガ	県内全域	5.6	4.7	3.2		
	ネギコガ	東葛, 香取	117.1	16.1	84.0		
	ナシヒメシンクイ	東葛, 印旛, 香取	13.4	11.2	11.9		
	モモシンクイガ	東葛, 印旛, 香取	0.0	0.3	1.3		
	チャハマキ	東葛, 印旛, 香取	25.4	16.2	7.1		
	チャノコカクモンハマキ	東葛, 印旛, 香取	60.5	41.7	19.0		
	チャバネアオカメムシ集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	147.9	145.2	147.6	
		ツヤアオカメムシ	〃	9.1	19.6	20.1	
クサギカメムシ		〃	20.0	14.2	14.6		
マルホシヒラタヤドリバエ		〃	35.3	34.0	42.8		

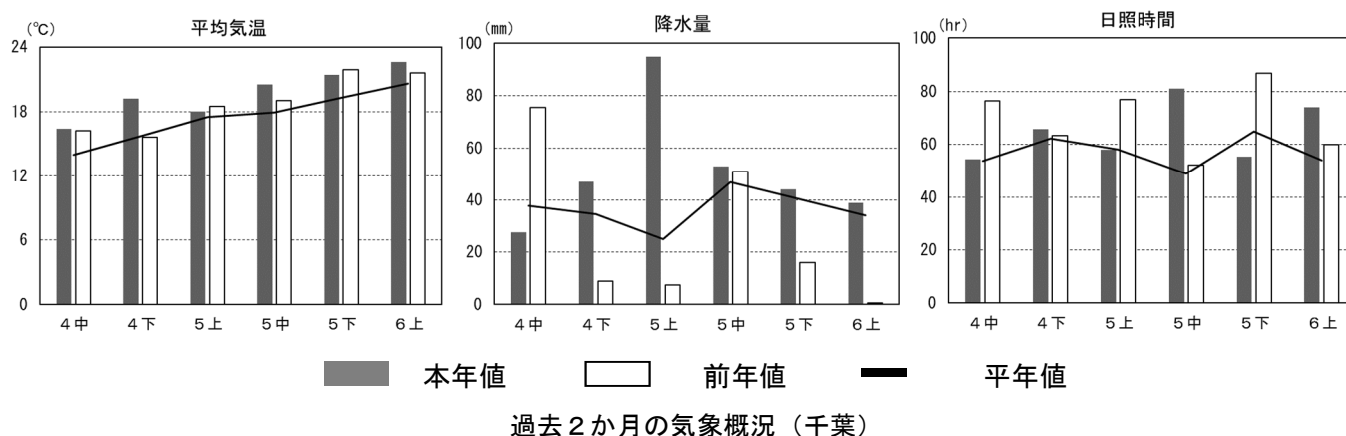
○気象予報

6月6日気象庁地球環境・海洋部発表
関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	30	40	30
降水量	30	30	40
日照時間	40	40	20

向こう1か月間の各気象要素の平年値
(6月12日～7月9日銚子地方气象台資料)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	22.4	20.4	22.2
降水量(mm)	152.9	167.7	216.9
日照時間(hr)	105.7	112.5	112.2



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

・次回の発行予定は7月10日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。

・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

https://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

問い合わせ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0006 千葉市緑区大膳野町 804

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp